



2024 年 2 月 16 日

日本鉄道労働組合連合会

ジェイアール・イーストユニオン 地本・地協代表者会議

現場の声を上げ、労働組合からの発信強化を！！



挨拶を行う菅野中央執行委員長

2月10日、ジェイアール・イーストユニオンは東京都内で地本・地協代表者会議を開催し、2024 春季生活闘争をはじめとする当面の取り組みや、組織活動に関する意思統一を行った。

代表挨拶に立った菅野一位中央執行委員長（JR 連合副会長）は、まず令和6 年能登半島地震にかかる現地支援の取り組みに触れた。そして2024 春季生活闘争については、JR 連合の春闘方針、コロナ禍からの脱却と会社業績の回復や政労使による賃上げ要請などの情勢も踏まえつつ、人財確保の観点からも会社に

‘当たり前の要求’をしていく決意を述べた。また、「変革2027」による急速な施策展開に向き合っていくことに加え、相次ぐ重大な不安全事故に触れ、JR 東日本の安全への信頼が大きく揺らいでいると指摘。「現場の声を上げ、労働組合からの発信をすべく取り組みを展開すること」を会議構成員へ強く訴えた。なお「組織財政と活動、組織の継承」についても、組織の将来を見据えながら議論を重ねていくことを要請した。

JR 連合からは政所大祐事務局長が参画し、挨拶では「不安全事故の背景には、世代交代や余裕のなさ、危険を察知する能力や経験値の低下等もある」とし、労働組合が健全に機能することの重要性を訴えた。また、2024 春季生活闘争を取り巻く諸情勢、産別方針と取り組み、政治・政策活動を連動させること、「組合員・社員のニーズを取り組みに反映すること」の必要性等を提起。そして「運動をより内外へ見せ、理解者を増やす取り組み」の強化を要請した。



協議事項としては、執行部から安全の確立にかかる課題認識を共有したうえで、2024 春季生活闘争について、この間の経緯を踏まえ産別方針を上回る純ベア13,000 円を要求すること、夏季手当については3.0 か月要求とすることなどを基軸とする方針や、「組織と活動のあり方」「教宣活動と人財育成」の取り組みについて提起がなされた。7名の



構成員からの質疑と執行部による応答・議論が活発に行われ、強固な意思統一が図られた。

最後は、菅野委員長が力強い団結がんばろうで本会議を締めくくった。